



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2021年3月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



2020年度、最後の子森通信をお送りします。

今月号では「東北復興グリーンウェイブ」を特集しました。

「東日本大震災から10年」の節目に、皆様と共にこれまでの活動をふり返り
被災地への想いを新にしたいと思えます。

写真は、岩手県山田町の森に植えられた東北の“どんぐり”の苗木です。
間もなく芽吹きます。

(目次)

1. 【特集】「東日本大震災」から10年「東北復興グリーンウェイブ」をふり返って
2. 被災地からのメッセージ（宮城県・岩手県）
3. 被災地からのメッセージ（福島県）
4. 園庭緑化運動リレーエッセイ（2021年3月号）

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



1. “東日本大震災”から10年“東北復興グリーンウェイ”をふり返って

2021年3月で「東日本大震災」から10年を迎えます。被災地の復興は、まだ道半ばです。J P 子どもの森づくり運動が取り組む被災地の緑の復興支援活動「東北復興グリーンウェイ」では、日本郵政グループの皆さんと共に、これからも支援活動を継続してまいりたいと思います。そのためにも、この節目の機会にこれまでの活動を共にふり返り、これからの活動の糧としたいと思います。掲載スペースの都合で、一部の活動しかご紹介できませんでした。その他の活動は、ホームページをご覧くださいませようお願い申し上げます。

1) 「東北復興グリーンウェイ」被災地での主な活動



【2012年】東北の“どんぐり”を拾って、全国の参加園に届ける活動が始まりました。

2012年の秋に、宮城県仙台市、岩手県山田町、奥州市において「東北復興グリーンウェイ」における第一回目の東北の“どんぐり”を拾う活動が行われました。拾った“どんぐり”は、全国の参加園に届けられました。

【2014年】岩手県山田町での植樹活動が始まりました。

2014年5月22日の「グリーンウェイ」の日に、岩手県山田町において、山田町の保育園（所）合同による、第一回目の植樹活動が実施されました。以降、被災地には、新型コロナウイルス感染症で活動が見送られた2020年までに毎年約100本、計、約600本の苗木が植えられました。



【2018年】岩手県宮古市での植樹活動が始まりました。

2018年5月、「あかまえこども園」と「津軽石保育所」合同植樹活動が実施されました。現在、新型コロナウイルス感染症の事情で延期となっていますが、宮古市では市内田老地区に子どもの森を作る企画が検討されています。

【2018年】植樹活動が福島県に拡がりました。

2018年6月に、福島県伊達市の「霊山三育認定こども園」の園庭に、同園の子どもたちによって大切に育てられた東北の“どんぐり”の苗木が植樹されました。同園では、震災後5年目を期して、放射能の除染活動で伐採された園庭の樹木の再生活動として植樹しました。



【2019年】福島県での植樹活動がつながりました。

福島県伊達市の「霊山三育認定こども園」からのつながりで、同じ伊達市内の「伊達こども園」の園庭に、東北の“どんぐり”の苗木が植えられました。同園では、「霊山三育認定こども園」と同じく、除染活動で失われた地域の緑の復活を目指して、園庭に“どんぐり”の森を作る活動に取り組んでいます。「東北復興グリーンウェイ」では、今後も活動をサポートしてまいります。

2) 「東北復興グリーンウェイ」全国の参加園における活動

被災地から届けられた東北の“どんぐり”は、全国の参加園の子どもたちが大切に苗木に育て、送り返されます。毎年5月には、東北に帰る“どんぐり”の苗木を見送る活動が、地元の郵便局の人たちと共に全国で開催されました。* () 内は参加郵便局名



●2014年東京都「新宿せいがこども園」(落合郵便局)



●2014年滋賀県「崇徳保育園」(豊郷郵便局)



●2015年広島県「山本まごころ保育園」(山本郵便局)



●2015年東京都「春明保育園」(豪徳寺駅前郵便局)



●2016年千葉県「今井保育園」(千葉中央郵便局)



●2016年福井県「鯖江いずみ保育園」(鯖江郵便局)



●2017年広島県「春日野まごころ保育園」(山本郵便局)



●2018年広島県「保育所みのり祇園」(安佐南郵便局)



●2018年鹿児島県「こまどり保育園」(鹿児島中央郵便局)



●2019年埼玉県「児玉保育園」(児玉郵便局)

2. 被災地からのメッセージ（宮城県・岩手県）

今回のふり返りに向けて、東北の参加園からメッセージが届きましたのでご紹介します。みんな暖かいメッセージです。

●宮城県「バンビの森こども園」壹岐副園長先生からのメッセージです。～東日本大震災に寄せて～

当園が「子どもの森づくり運動」の考え方・取り組みに共感し活動に参加させていただいたのは、活動開始後まもなくのことだったと思います。その後すぐ、あの東日本大震災という大きな災害に見舞われ未だに一見穏やかな日々の中にまだまだ復興しきれていない場面や瞬間を感じる時、自然とともに「生きる」とはということをふと考えてしまいます。震災後『東北復興グリーンライブ』としての活動、「どんぐりを拾い育て各地へ届ける」という活動にも参加させていただきました。親子遠足にどんぐりがある場所を選んで（森林インストラクターの河内さんにも同行していただき）親子でどんぐりを拾い、園に持ち帰って育て、各地の保育園等に届けるという活動にも取り組んできました。子どもたちは自分たちの拾ったどんぐりに「あつ芽が出る」「大きくなっている」と毎日心を寄せ見守り、苗木を送るときは「大きくなってね～」と応援の声をかけて送り出しました。私自身も第1回目の山田町での植樹会に参加させていただき、スタッフの皆さんや仲間の園の先生たちと気持ちをひとつにした体験は思い出深いこととして心に残っています。このコロナ禍の中、園庭や自然の中での遊びや環境を深めるチャンスととらえ全国の皆様との繋がりの中で子どもにとっての良い環境づくりを進めていきたいと思っております。



2012年10月「岩沼グリーンピア」東北の“どんぐり”を拾う活動

●岩手県「社会福祉法人三心会」（注）清水理事長先生からのメッセージです。～東日本大震災10年の回想～

「光陰矢の如し」この10年の時空、懸命に生き抜いた被災地の住民、そして、その被災地と住民を支えてくれた多くの国民の方々、世界中の心ある人々にあらためて感謝を申し上げます。過般（かはん）3月11日、当寺（龍昌寺）において、東日本大震災から10年を迎え追悼の供養祭を行いました。コロナ禍のところ、70数名のご遺族の方々が犠牲になった260数名の御霊に焼香し、お手をあわせていただきました。第一保育所園児も、犠牲になった友だちと先生に焼香し、お手を合わせました。読経中、260数名の犠牲者のお名前を読み上げながらご冥福を祈り、各ご遺族のこころの安寧を祈願しました。当法人の各保育園の復興にご加担頂きました「東北復興グリーンウェイブ」参加園の方々に心より感謝申し上げます。保育所も多様な時代と共に保育のカリキュラムも変化し、アップデートしていかなければならないであります。その意味で、「東北復興グリーンウェイブ」の活動を通じて、これからもより一層のご指導をお願い申し上げます。結びに、「東北復興グリーンウェイブ」の益々のご隆盛とスタッフ各位のご活躍をご祈念申し上げます。



2014年5月
山田町保育園（所）合同活動

（注）
「社会福祉法人三心会」運営園
山田町第一保育所
豊間根保育園 織笠保育園

●岩手県「あかまえこども園」小関園長先生からのメッセージです。

東日本大震災から10年と言う時が経過し、少しずつその痛みは和らいできたように感じます。復興のための高層住宅、高速道路等、インフラ整備も終わり、新たな街での生活が始まっていますが、新しい環境は過去の思い出も消してしまうこともあります。津波から命を守るために、巨大な防潮堤が築されましたが、同時に人々の思い出のある風景も消えてしまいました。復興のため、森林の伐採が増えましたが、植林はほとんどされていません。災害は環境を破壊しますが、復興のための環境問題も考えなければなりません。失った自然を取り戻すには時間がかかりますが、自然との共存は必要です。大気汚染は地球の寿命を縮めます。自然環境運動に取り組む子森ネットの活動は、未来を担う子どもたちを守る活動です。「東北復興グリーンウェイブ」では子どもたちにたくさんの元気をいただきました。震災の教訓を生かし保育者の防災教育にも力を入れた活動に感謝いたします。



2020年5月
全国から「あかまえこども園」に届
けられた東北の“どんぐり”の苗木

3. 被災地からのメッセージ（福島県）

●福島県「田島保育園渡部園長先生からのメッセージです。」

「東北復興グリーンウェイ」における、南会津町での活動は、新型コロナ感染症対応のため来週まで延期としていました。さらに、園で育てたどんぐりの苗木の活動もできないままでした。現在、感染症対応の事情で、これらの活動が規制され、自然や環境体験活動不足の状況にあります。そんな中、今年度は南会津町のどんぐりをプランターやポットで育てる活動は、自然の息吹や命を体感する貴重な活動であるので、積極的に実施していきたいと思っています。さらに、どんぐりの苗木を「東日本大震災」で被災した地域の子どもたちへ送る活動も行うことや、新型コロナウイルス感染症により、活動自体が困難になっている等の事情がある幼稚園や保育所などにも、自然を実感できるような思いをしてもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。今後も、この状況が続く中ではありますが、感染症対策を講じながら、微力ではありますが「東北復興グリーンウェイ」の活動に今年度も参加していきたいと思っています。



2016年11月
「田島保育園」の子どもたちが、
地元の森で拾った“どんぐり”を、
「霊山三育認定こども園」に届けました。

●福島県「霊山三育認定こども園」斎藤園長先生からのメッセージ

あれから10年・・・あっという間に月日が経ちました。時間が解決してくれると言いますが、今でもあの当時の光景が目に見えてきます。東日本大震災、福島原発爆発、目に見えない放射能との戦いは創造以上の生活が余儀なくされました。園庭の花壇、グラウンドの除染、園庭の樹木の伐採、木陰がなくなり、まるで砂漠の園庭。取り巻く環境が一変して変わり、子どもたちの生活は大きく変化しました。外に出て遊ぶことができない、自然の中で虫探しやグラウンドを走り回ることもできず子どもたちの体力にも変化が見えてきました。震災後5年目にして2016年11月19日に、南会津にある田島保育園（渡邊園長）の園児さんたちが地元の森でどんぐりを拾い送っていただきました。そのどんぐりを親子一緒に植えました。翌年「東北復興グリーンウェイ苗木のお披露目会が2017年6月24日（土）」に開催させていただき60本の苗木が育ちました。苗木はその後子どもたちによって育てられ、2018年6月23日に4本の苗木を園庭の二か所に植樹されました。終了後に、どんぐりの成長を願って「どんぐりず」と一緒に「東北グリーンウェイ」のテーマソング どんぐりえがおダンスを踊りました。震災後、心から笑顔になれた一日でした。これからも、みんなで自然を大切に、明るく、優しく、楽しく歩みます。



2016年11月19日(土)
「田島保育園」の子どもたちが届けてくれた
南会津の“どんぐり”を、お父さんお母さんと
一緒に、プランターに植えました。

●福島県「伊達こども園」内藤副園長先生からのメッセージ

ここ伊達市では、10年前の東日本大震災と東京電力福島原子力発電所の事故により、園舎や園庭、緑豊かな森林が放射性物質で汚染されました。その後の除染作業によって園庭の表土は剥ぎ取られ、植栽は無残に切り落とされてしまいました。本園では、3年前に東北復興グリーンウェイの活動に出会い、年長児が秋田から届いた苗木を、園庭の「どんぐり山」に植えています。また、『「♪どんぐりえがお」でつながろうプロジェクト』では、3・4・5歳の園児が、「緑の絆が力になる」と元気に歌いました。苗木の根元にやさしく土をかけ、「おおきなあれ。」とおまじないをかける子どもたちの真剣なまなざしを見た時、自然体験の素晴らしさを実感しました。同時に、木々が無残に切り落とされた10年前を思い起こしました。あの時起きた事やその後の歩みについて、福島未来を創る子どもたちに、しっかり語りついでいかなければならないと思いました。よろしくお願いします。



2019年11月5日(木)
伊達こども園の園庭に、岩手県山田町
で育てられた“どんぐり”の苗木を植えました。

4. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2021年3月号)

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化・自然化についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載しています。「子森通信」2021年1月号から3月号は、園庭研究所 代表 石田佳織さんにお願しました。3か月に渡って、素晴らしい原稿をお送りいただきました。今月号が最終回となります。

～子ども、そしてお母さんお父さんと～

園庭研究所 代表／東京大学発達保育実践政策学センター 園庭調査研究グループ 石田佳織氏



道端の草にも庭の木々にも花や新芽が開き、春の幸せを感じる日々ですね。こんにちは、園庭研究所の石田佳織です。さて今回は、「ご家庭と一緒に」についてのお話させて頂ければと思います。子森ネットの皆さまのように、今園庭や子どもと自然について、保育現場での意識や実践が高まっているように感じます。そうした中で耳にするのが、「園で子どもたちが自然を楽しめるよう取り組んでいるけれど、保護者さんが自然に関心がなければ、子どもの興味関心も園の中だけで留まってしまう」ということです。この一年リレーエッセイで仙田さん小泉さん田邊さんがお話くださいましたように、自然は子どもたちにとって最高の遊び環境であり、かつ衣食住あらゆる面で人の暮らしを支えてくれる、欠かすことのできない存在です。こうした自然に対して、園から家庭、家庭から園へと連続して周りの仲間や大人と一緒に、草木や虫や鳥、雨やお日さま、風や空と一緒に楽しみ、より良い関わりを学んでいければ、子どもは暮らし全体の中で循環させながら自然との関わりを深めていくことができるのではないのでしょうか。

では、お母さんお父さんにも自然を楽しんでいただけるように、園としてどんなことができるでしょうか？例えば写真の園では、その時々々の園庭の自然について「さがしてみよう」シートを園庭に置いておき、送迎時に親子で探索できるようにされています。こうしたちょっとした工夫で「なんだろう？探してみよう」と意識を向けられそうですね。また、園庭全国調査では、園庭で保護者の方と一緒に、親子で自然遊びをする日を設けたり（写真）、植樹や草木・田畑の手入れをしたり、地域の竹で遊具を作ったり、花や実りを愛でたり頂いたりする事例が挙げられました（1）。子どもは自然に向き合う時、実に色々なことに気付き、感じ楽しんでいきます。

あなたの園庭で、子どもたち、ご家族、園の先生方、そして地域の方々と一緒に、四季折々の自然を楽しみ、園と家庭と地域がつながって暮らし全体で深めていけますように。

【引用文献】

- (1) 石田佳織 他(2018) .「園庭や近隣環境を通じた保育・幼児教育施設・保護者・地域住民の関わり」. 国際校庭園庭連合日本大会発表



東京都「草苑幼稚園」
その時々々の自然を「さがしてみよう」シート



茨城県「キッズクリエイション」
講師を招いて園庭の草木を五感で楽しむ
親子ワークショップ

○著者information

- ◆園庭研究所 HP : <https://ameblo.jp/hagukumino-niwa>
- ◆Facebookグループ「園庭・地域環境での保育 交流グループ」（園庭や地域での保育・教育に関する話題を通して自由に交流して頂けます。） <https://www.facebook.com/groups/ecec.outdoor>
- ◆東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）園庭調査研究グループ
HP : http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp//projects_ongoing/entei/
- ◆著者園庭書籍：『園庭を豊かな育ちの場に 質向上のためのヒントと事例』ひかりのくに